

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3016182号

(45) 発行日 平成7年(1995)9月26日

(24) 登録日 平成7年(1995)7月19日

(51) Int.Cl.⁶

E 0 4 H 13/00

識別記号

C

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

評価書の請求 未請求 請求項の数1 O L (全6頁)

(21) 出願番号 実願平7-2308

(22) 出願日 平成7年(1995)3月24日

(73) 実用新案権者 392003096

株式会社メモリアルアートの大野屋
東京都新宿区西新宿7丁目5番25号

(72) 考案者 大澤 秀行

東京都新宿区西新宿7丁目5番25号 株式
会社メモリアルアートの大野屋内

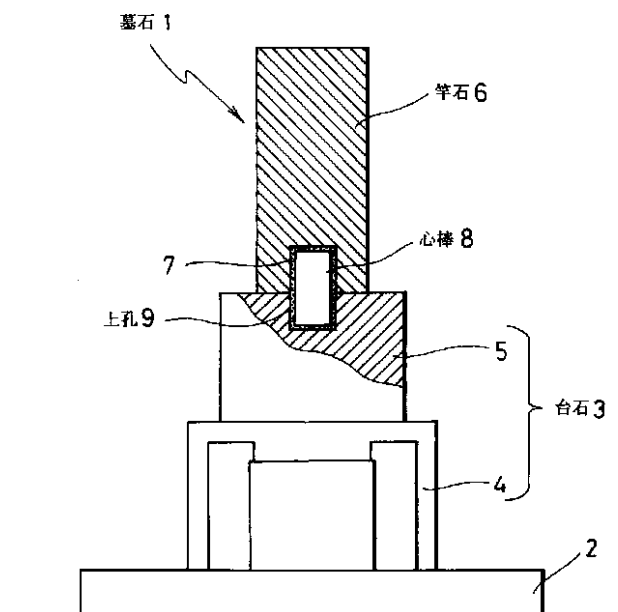
(74) 代理人 弁理士 澤野 勝文 (外1名)

(54) 【考案の名称】 耐震墓石

(57) 【要約】

【目的】 墓石の外観を損ねることなく耐震性を向上させ、特に、人命に危険を与え、破損すると多大な損害である竿石の落下を確実に防止する。

【構成】 竿石6とそれを立てる台石3からなる墓石1で、竿石6の底面から内部に向かって垂直に所定の深さの上孔9が形成されると共に、当該上孔9内に、台石3に垂直に支持される心棒8が差し込まれている。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 竿石（6）とそれを立てる台石（3）からなる墓石において、竿石（6）の底面から内部に向かって垂直に所定の深さの上孔（9）が形成されると共に、当該上孔（9）内に、台石（3）に垂直に支持される心棒（8）が差し込まれていることを特徴とする耐震墓石。

【図面の簡単な説明】

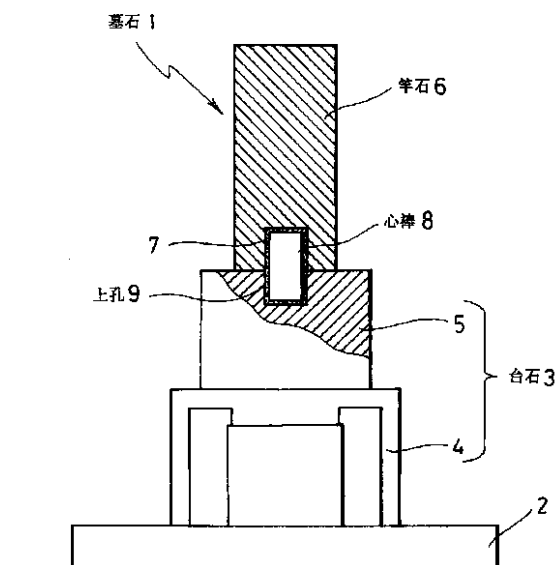
* 【図1】 本考案に係る耐震墓石の断面図。

【符号の説明】

- 1・・・墓石
- 3・・・台石
- 6・・・竿石
- 8・・・心棒
- 9・・・上孔

*

【図1】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、地震で墓石の最上部に位置する竿石がずれたり落下したりすることを防止する耐震墓石に関する。

【0002】**【従来の技術】**

最近の墓地には様々な形の墓石がみられるが、昔から現在まで日本の最も一般的なお墓の形は和型墓石である。

和型墓石とは、台石の上に家名などが記された長方体の竿石が立てられている墓石であるが、一般的に台石は上台石と下台石のふたつの石碑からなり、台石の下には芝石を敷くことが多い。

【0003】

ところで、地震国であるわが国では地震が頻繁に起こるので、お墓がそのために倒れるのではないかと気にする顧客も多い。

やはり石碑同士のバランスで立て上げるだけではちょっとした地震でも倒れてしまうし、地震だけではなく、冬に台石に氷が張ったときに強風で竿石が滑り落ちることもあるので、各石碑の合わせ目にセメントなどで目地を施し固定している。

ところが、これだけでは耐震性があまりなく、大きな揺れのときには各石碑がずれたり落下してしまうことが多い。また、大きな地震が早々起こるとは思えないが、小さな地震でも何度も続くと石碑がずれてやがて落下することも考えられる。

【0004】

特に、棹石は、和型墓石の最上部に位置する縦長の石碑であるから落下しやすく、もし、落下したときに人がその下敷きになると大変危険であるし、棹石は墓石の命といわれる大切なものであるから破損してしまうと多大な損害である。

そこで、台石に竿石の底面分の広さの穴を彫るか、台石に1cm程の切り込みを入れると、台石の上を竿石が滑らなくなる。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、顧客の中には、たとえ台石であっても石の表面を削る加工をしたくない人や、墓石の外観が損なわれることを嫌う人もいる。

そこで本考案は、墓石の外観を損ねることなく耐震性を向上させることを技術的課題としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するために、本考案は、竿石とそれを立てる台石からなる墓石において、竿石の底面から内部に向かって垂直に所定の深さの上孔が形成されると共に、当該上孔内に、台石に垂直に支持される心棒が差し込まれている。

【0007】

【作用】

本考案によれば、竿石は、これを立てる台石に垂直に支持される心棒で枢支されているから、地震が発生してもずれたり落下することはない。よって、墓石の外観を損ねることなく耐震性を向上させることができる。

【0008】

【実施例】

以下、本考案の実施例を図面に基づいて具体的に説明する。

図1は本考案に係る耐震墓石の断面図である。

【0009】

本例に示す墓石1は和型墓石で、土台となる芝石2，台石3である下台石4及び上台石5，さらに竿石6が順に立て上げられている。

上台石5には上面中央部から内部に向かって垂直に直径60mm，深さ60mmの下孔7が形成され、直径56mm，長さ150mmのステンレス製心棒8がその下孔7内に差し込まれてモルタルなどの接合剤により固定されている。

竿石6には底面中央部から内部に向かって垂直に直径60mm，深さ120mmの上孔9が形成され、その上孔9内に、上台石5に垂直に支持された前記心棒8が差し込まれている。

ここで、心棒8の長さは、熱伸縮を考慮して下孔7及び上孔9の深さよりも多少短めのものにする。

そして、芝石2，下台石4，上台石5，竿石6夫々の合わせ目に生セメントなどで目地が施されている。

【0010】

これにより、竿石6は、これを立てる上台石5に垂直に支持される心棒8で枢支されているから、地震が発生してもずれたり落下することはない。

また、上台石5と竿石6の合わせ目に施した目地は、雨水の浸透により心棒8が錆びて耐震性が減少することを防止する。

よって、墓石1の外観が損なわれることなく耐震性を向上することができると共に、人命の安全も確実に確保できる。

【0011】

なお、本考案は和型墓石だけでなく、洋型墓石，変形墓石，自然石を使用した墓石にも実施することができる。

また、上台石5の下孔7及び竿石6の上孔9は、丸孔，四角孔，三角孔など何れの形状でもよく、心棒8も孔の形状に合わせたものにする。

また、下孔7及び上孔9は、夫々ひとつではなく複数個形成して夫々心棒8を差し込めば、地震で竿石が回転し所定の位置からずれることを防止する。

さらに、心棒8を筒形にすれば、経文や故人が愛用した小物などを入れる経文入れにもなる。

【0012】

【考案の効果】

以上述べたように、本考案によれば、竿石は、これを立てる台石に垂直に支持される心棒で枢支されているから、地震が発生してもずれたり落下することはない。

よって、墓石の外観を損ねることなく耐震性を向上することができ、また、人が落下した竿石の下敷きになる等の事故も防止することができるという大変優れた効果を有する。

さらに、心棒は、経文や故人が愛用した小物などを入れる経文入れにもなると

いう効果も有する。